

文化財通信

～平成22年 初夏号～
(第2号)



〈切り取り線〉

郵便はがき

602-8790

料金受取人払郵便

西陣支店承認

1098

差出有効期限
平成24年5月
27日まで

京都市上京区下立売通新町西入ル藪ノ内町
京都府文化環境部文化環境総務課
「文化財を守り伝える京都府基金事務局」

〈切り取り線〉

文化財通信 ～平成22年初夏号～ (第2号)

平成22年6月

京都府文化環境部文化環境総務課

〒602-8570

京都市上京区下立売通新町西入ル藪ノ内町

TEL 075-414-4181

FAX 075-414-4187

Eメール bunkanso@pref.kyoto.lg.jp

平成23年度には国民文化祭・京都2011が開催されます

「国民文化祭・京都2011」PR隊長 まゆまる



再生紙を使用しています

平成22年6月

京都府

ごあいさつ

京都府では、歴史的建造物の保存、修理や防災対策など「文化財保護」にその用途を限る全国唯一の「文化財を守り伝える京都府基金」を条例で設置し、京都の文化財を大切に思っていた全国の方々に、ご寄附をお願いしております。

おかげ様で全国から暖かい多くのご寄附をいただき、まず、ご協力いただいた皆さまに、心からお礼を申し上げます。

この『文化財通信』第2号は、平成21年度の基金活動結果などをご報告するとともに、この基金の呼びかけ人の一人である京都大学前総長 尾池和夫 先生のインタビュー記事も掲載しました。第1号に続いて、ご一読いただければ幸いです。

また、今年度も寄附者の皆様へは様々な文化体験も用意しておりますので、ぜひご参加いただければと思っております。

京都の文化財を守り伝える取組を多くの皆さんと手を携えながら広げていくことは、京都が日本人の「こころのふるさと」としてあり続ける上で、欠かすことのできないことです。

今後とも、積極的にこれらの施策に取り組んでいきたいと考えておりますので、皆さま方の一層のご理解、ご協力をお願いいたします。



平成22年6月
京都府知事 山田 啓二

『文化財通信』表紙の「常磐色」と「若菜色」

常磐色

この『文化財通信』表紙の題字には「常磐色」（濃い緑）を用いています。『源氏物語』で、光源氏は、六条御息所を野宮に訪ね、彼女に対する変わらぬ恋心を、永久不変の樹木の緑に例えて、「常磐色」と言っています（賢木巻）。また、表紙の背景は「若菜色」（淡いうぐいす色）を用いました。同じく『源氏物語』で、光源氏の40歳の祝いの席で、養女の玉鬘が若菜を差し出した（若菜巻）ことちなんで、このようなくぐいす色を用いました。永遠の「常磐」と若く「若菜」を文化財の保護と継承の願いに委ねたものです。

若菜色

目次

基金呼びかけ人インタビュー 1 尾池 和夫 氏「変動帯の文化—京都の文化財をめぐる—」……………1
ご寄附で保護される京都の文化財 ～平成21年度に実施した事業について～ ……………5
寄附された方々の京都文化体験 ……………7
「文化財を守り伝える京都府基金」の概要 …………… 11

文化財 こぼれ話 4

○ 狛犬

神社などの建造物の前に一対向き合って置かれている狛犬は、もとは仏像の前に2頭の獅子の像を置いたことに由来します。古い時代の狛犬は、堂内に置かれていましたので、仏像と同じく木造でしたが、のちに屋外に置かれるようになり、風雨に耐える丈夫な石造に変わっていったと考えられています。

また、「獅子」2頭で一対でしたが、「獅子」と「狛犬」の組合せが大部分になりました。厳密には、口を閉じているのが「狛犬」で、口を開けている方は「獅子」なのです。

賀茂別雷（上賀茂）神社の国宝・本殿、権殿は、南側の壁板に、獅子、狛犬が描かれ、さらにその前に金色の獅子と銀色の狛犬の彫像が安置されています。一対の板絵は、もとは社殿の反対（北）側に置かれていた彫像が、南側の壁板に絵画として移されたとも言われています。このことは、千数百年前から連続と繰り返される神奈備（神山）や御祭神の祭祀方法の変化に関係すると、同神社では伝えられており、全国的にも非常に珍しい例です。

『徒然草』236段には、出雲大神宮（亀岡市千歳町）の狛犬の話が出ています。ある高僧が出雲大神宮に参拝し、向かい合わずに背中合わせの獅子・狛犬の様子を見て、何か深い由緒があるのだろうと感激するのですが、神官に尋ねたら、子どものいたずらとわかったのがっかりしたという話です。これは子どもが簡単に向きを変えられるような獅子・狛犬だったのだろうと想像されます。

その他、神様のお使い（神使）として、キツネ（稻荷社）、ネズミ（大豊神社）、イノシシ（護王神社）などの動物一対が狛犬のように神前に置かれている神社もあります。



賀茂別雷神社、国宝権殿

変動帯の文化ー京都の文化財をめぐってー

尾池 和夫

○ナマズと古典

私は、東京に生まれましたが、戦争の終わり頃、小学校入学前に、祖父の出身地、高知県の小さな村へ移住しました。小学2年生の時、高知市内に引越し、転校しました。授業で先生が「お池にナマズがいる。」という話をされたところ、私の名前が「おいけ」だったので、たちまち、あだなが「ナマズ」となりました。それで地震学を研究することになったわけではないのですが…。

その後、私立土佐中学、高校を経て、大学で京都に来ました。京都大学理学部に入学しました。土佐中学、高校は中高一貫の受験校で、漢文、古文など何でもよく学びました。古典も好きで頭に入っていました。京都に来たら、『源氏物語』、『枕草子』、『徒然草』、『方丈記』など古典に登場する舞台、実物がたくさんあることに感動し、歩き回りました。例えば京大横の吉田神社は吉田兼好法師ゆかりの場所というぐあいです。このことが文化財を意識した最初で、京都に来て、文化財に触れられてよかったなあと思いました。

○地震学へ

大学では最初から地震学を専攻せず、4回生で地震学を研究しました。卒業してすぐに京大の防災研究所の助手になり、地震を研究し、微小地震の観測を始めました。どこに微小地震が起こっているのかを研究したら、鉄道の線路沿いで小さい地震が発生していることに気づきました。断層の破碎帯に沿って川ができ、その後、道ができ、またその部分に鉄道が通ったので、そこに地震が多いことがわかったのです。活断層の研究につながっていくわけです。その頃京都盆地に活断層があることは知られていませんでしたが、京都盆地は活断層運動でできたこと



がわかりました。1960年代に、花折断層が活断層であることがわかったのです。

○京都盆地の文化財

京都盆地は、ずれの運動で東山、西山が上がって、中心部が下がって、盆地には堆積層ができ、地下水がたまりました。高台になった場所には、社寺、文化財が所在しています。東山では、花折断層系に沿った高台に、北から三千院、曼殊院、詩仙堂、銀閣寺、法然院、清水寺、伏見稲荷大社など多くの社寺、文化財が所在します。文化財は、盆地を見下ろす場所に並んでいます。活断層運動と文化財の所在は関係が深いのです。西山では、松尾大社、西芳寺(苔寺)などが破碎帯に沿って分布しています。松尾大社はお酒の神様ですが、附近には水が湧いています。断層と水が関係していますね。

京都盆地の内には水脈が走り、三千家の茶道、梨木神社の名水など、地下水を活用した文化があります。京都には日本酒、豆腐、湯葉、生麩、茶の湯、友禅、和菓子、半導体とその時代時代のものが活断層盆地の堆積層に貯えられた豊かな地下水によって育まれました。もちろんそれに裏付けられた京料理や京舞も重要な京都のもてなしの文化です。私はそれを「変動帯の文化」と呼んでいます。



松尾大社 重要文化財・本殿

○変動帯の文化

活断層運動が大地震を起こしますが、活断層の存在で、京都には世界的な文化が生まれました。文化、文化財ができた仕組みでもありますね。活断層運動で盆地ができ、都ができ、文化財ができました。水、地下水があるから文化が長持ちするのです。次々と新しい時代時代の文化を生み出し、世界文化遺産につながったのです。

活断層のおかげで文化、文化財ができましたが、活断層運動は繰り返し起こりますから、今度は文化財を大地震から守らねばなりません。

○文化財を守り伝える京都府基金

火事は人災ですから防げます。消防の人々とともに京都府民は、防火に努めています。戦争は人間が起こすのですからやめたらいいわけです。しかし、自然災害はやむを得ないですね。それらに耐えるまちづくり、ハード、ソフト両面の備えが必要です。それにはお金が必要です。寄附をくださいというのは単純な道理ですね。京都の人は、声を大にして寄附を集め、上手に活用して、世界の期待に応えて文化財を守っていくのが役割です。浄財を活かしていけばいいのです。

行政は、こうした取組を支援する仕組みをしっかり作ることが必要ですね。住民、行政及び世界中で支援する人の三者が一体になって行う、という役割が明確です。

○京都にはなぜ城壁がないのか

日本は、新しくできた島です。現在もプレート運動で動いている最中です。盆地は世界的規模に比べると小じんまりしたもので、京都や奈良など一つの都市ができる程度の規模です。中国・西安などの盆地は構造、規模が大きいです。地震もM8の巨大地震や超巨大地震は起きないで、M7程度の大地震が起きます。

京都盆地は、6本の活断層が集中していることの産物で、三方の山が自然の要塞となった盆地です。京都は千数百年の古都ですが、その特徴は、外国の古都のように周囲に城壁がないことです。外国の都は皆、西安のように城壁を持っていて、世界遺産になったりしています。豊臣秀吉が作った御土居がありますが、洪水対策が主目的でした。活断層運動が細かく動いて、三方に自然の城壁を作ったことも城壁のない理由ですね。

また、平和な日本の民族性も城壁を築かなかつた理由です。この特徴を上手に生かして、活用すればいいのです。精神的な文化も大切で、守っていけばいいのです。



松尾大社 奉納された酒樽

○地震は忘れられる

日本人は、火事に比べて、地震の記憶は薄いですね。神戸の地震の時もそうでした。皆、まさか神戸で地震が起きると思っていませんでした。生田神社の社殿が壊れて、皆びっくりしたでしょう。しかし、社殿

の西には、ちゃんと安政元年(1854年)の地震で壊れた鳥居(生田の折れ鳥居)が保存されているのです。江戸時代の大地震の証拠が残っているのですが、人々は忘れていきます。東寺へ行けば、建物が地震で壊れたこと、柱が折れたこと、鉄の輪をはめて補強した、と説明板に書いてありますよ。しかし、「木造建築は地震に強い。丈夫だ。京都に地震は起きない。」という人がいます。皆、震災の記憶を忘れているのです。

京都にもたびたび地震が起きているのです。北野天満宮へ行けば、燈籠が六百数十基あり、年代が刻まれています。それを調べますと、1830年直後に新しくできた燈籠が多いのです。つまり1830年の文政地震で壊れた直後に建て替えられているのです。また1830年以前の燈籠は、石が欠けているものが多く、補修されています。地震で傷んだので、修復しているのです。古文書にも地震の記録が残っています。知っているはずなのですが、また起きると思わないのです。台風なら、毎年来るからしかたないと思う。逆に居直るんですね。地震は一番怖いから、来てほしくないのです。大丈夫と信じるのです。

○地震と火災

大地震はそうたびたび起こるものではありません。一生の中で震度7という家が全壊するような地震が起きることは、少ないのです。火事で家が全焼することは、たまにあります。ただ、いったん大地震が起きる



東寺 重要文化財・講堂 (柱の上部に鉄輪をはめてある)

と、多くの家が壊れます。実際、確率的には地震で家が壊れる率は、火事で全焼するより少し高いのです。町中が焼ける火事はめったにないのですよ。防火に努めていますからね。でも地震は防ぎようがない。

我々が生きている間に、大地震が起きる確率は、五分五分ですね。吉田山西の花折断層は、約2000年前、弥生時代後期に1回ずれています。縄文時代にも1回ずれています。歴史記録の中では、花折断層が動いた記録はありませんね。仮に2000年に1回動いたら、そろそろ来るかなと思いますね。3000年に1回なら、まだ起きない……。

○常識の誤り

花折断層の上は実は岩盤で、地盤が良いのです。ですから揺れにくく、建物は倒れにくいのです。それで、地震で壊れなかった社寺の建物は、現在まで残っていますが、一方で壊れた建物も多いのです。残っている建物は丈夫なのです。花折断層の上が丈夫と言っても、方広寺の建物は壊れて、大仏が傷みましたが、近くの三十三間堂は残っているのです。全部が丈夫な建物という訳ではないのです。だから防災対策をして、後世に残るように、大切にしなければならないのです。そのためにもこの「文化財を守り伝える京都府基金」への寄附がぜひ必要なのです。

「お寺は丈夫だから、何も対策しなくてもよい。」というのは間違いです。多くの建物が壊れた話を知るべきです。たいていの建物は、壊れて無くなっているということから学ぶべきです。

○大切な防災の取組

「木造建築は丈夫です。京都は1200年前から都です。」と言いますが、1200年前の建物は何も残っていません。たいてい戦争や火事や地震で無くなっています。意識して守る努力をしないと残りません。建物の中の文化財も、建物を守らないと残りません。地震に対して建物自体が丈夫でも、火事が起きれば無くなります。類焼する怖れもあります。消火装置も必要で

す。京都の文化財の建物の回りは民家が立て込んでますから、どこから火が出るかわかりません。神戸の震災では、火災が起きて亡くなった方が多いのです。関東大震災もそうです。東京は震度6ぐらいでしたが、多くの方が火事で亡くなっています。火を出さない取組が必要です。地震で火事が起きるのが怖いのです。防火壁、防火設備、消火栓などの対策が必要です。対策を講じるにはお金がいらいます。



○南極大陸も世界遺産

世界遺産を登録するユネスコ自身がヨーロッパの安定大陸の発想ですから、地震の怖さを知りませんね。地球資源、環境、エネルギーと言われる時代に、ユネスコは未だに南極大陸を視野に入れていません。五大大陸のままです。ユネスコの世界地図には南極大陸がありません。南極大陸を無視するようではいけませんと、前の松浦事務局長にも申し上げました。

○天地人プロジェクト

私のいる国際高等研究所では、「天地人プロジェクト」を実施しています。今までは天文学、地文学、人文学がばらばらで研究していましたが、お互いに理解しあう取組です。地文学とは、地球に関する学問です。ジオパークは、まさに地文学振興の取組です。大地のことを知ろうとする学問です。地球、大地の恩恵に浴していることをわかってもらわないといけませんね。

万緑や膨張宇宙の中にある 和夫

○地球の警告

人類は横着なところがありますよ。今、地球上の生物で、総重量が一番重いのは人間です。牛がほぼ同じくらい。これは人が食べるために飼っているから増えています。それと、南極オキアミです。クジラの餌となる生物です。これらがほぼ同等の重量です。次、もし大量絶滅があって、石油ができるような時には、人間が原料になってしまうのです。前回は、恐竜が大きくなりすぎて絶滅しました。人間も万一絶滅する時のことを予想して、環境を大切にしたい方がいいですよ。戦争の跡やゴミが汚い化石にならないようにね。

○環境問題

人間は地球にお世話になっているのに、そのことを忘れていきますね。あまりあつかましいと、地球が人間を絶滅させますよ。地球は大量絶滅を繰り返しているのです。地球に都合の悪いものができたら、地球がそれを絶滅させるのです。そういう仕組みを持っています。その準備が始まっているのでしょうか。オゾン層破壊とか温暖化とか、地球は人間が住みにくくなっていますからね。

文化財を守るのも、環境を守ることに繋がります。これが大事な視点です。

以上、羅列的なお話をしましたが、京都の文化財を守り伝える取組は有意義なことですから、たくさんの方に協力していただくとうれしいですね。京都府は、今後も是非こうした取組をしっかりと続けていられるよう願っています。

【平成22年2月18日、財団法人国際高等研究所にて】

おいけ・かずお：財団法人国際高等研究所長、理学博士、京都大学前総長、俳人協会会員、文化財を守り伝える京都府基金呼びかけ人

ご寄附で保護される京都の文化財

～平成 21 年度に実施した事業について～

○ 趣 旨

京都府では、国民的財産ともいえる府内の貴重な文化財を守り伝えるため、ふるさと納税制度を活用した全国唯一の取組になる「文化財を守り伝える京都府基金」を平成 20 年 7 月に創設しました！

この基金等を利用して、貴重な府内の国、府の指定等文化財及び未指定の歴史的建造物などの保存修理、防災対策等に対し、その事業の緊急性や必要性などを考慮し、学識経験者による選定委員会の考えをお聞きして、今回初めて、保存・修理等の事業を実施しました。

また、府ホームページ上で「文化財保護のこころを育む事業」を公募し、文化財保護の普及啓発に役立つ事業に助成しました。この制度を通じて、府民の皆さまに文化財に対する関心を深めていただき、文化財を保護し継承することの大切さをより一層理解していただくよう努めます。

ありがとう
ございました。

○ 平成 21 年度の基金活用事業(23 件)

(1) 歴史的建造物など有形文化財の保存・修理事業：13件

社寺等名	所在地	対象事業の概要
清水寺	東山区	重要文化財・鎮守堂の檜皮葺等の修理
知恩院	〃	府指定文化財・四脚門の屋根瓦葺修理
ろくはらみつじ 六波羅蜜寺	〃	重要文化財・本堂の縁周囲修理
とよくに 豊国神社	〃	国宝・唐門の檜皮葺修理 写真1
妙法院	〃	本堂の天井修理
しんしやうごくらくじ 真正極楽寺	左京区	総門袖壁の修理、塗替
吉田神社	〃	重要文化財・斎場所太元宮の縁周囲修理
こんかいこうみょうじ 金戒光明寺	〃	府指定文化財・鐘楼の解体修理
法界寺	伏見区	国宝・阿弥陀堂の屋根災害復旧
萬福寺	宇治市	重要文化財・大雄宝殿の回廊屋根修理 写真2
まんじゆいん 萬壽院	〃	府指定文化財・客殿の屋根の突風被害修理 写真3
石田神社	綾部市	重要文化財・ ^{えびす} 恵比須神社本殿の壁板の修理 写真4
行永寿二郎	舞鶴市	重要文化財・ ^{ゆきなげけしゆうたく} 行永家住宅の屋根修理等

(2) 地震・火災等から有形文化財を守る事業：6件

平安神宮	左京区	災害時の非常用発電機の修理
みおや 賀茂御祖神社	〃	自動火災報知機設置等
伏見稻荷大社	伏見区	自動火災報知機、消火栓設置等
せいちようじ 誓澄寺	宇治市	自動火災報知機設置等
念仏寺	城陽市	同上
しょうぼうじ 正法寺	八幡市	消火栓設備改修等

(3) 文化財保護のこころを育む事業：4件

京都府文化財所有者等連絡協議会	文化財所有者等対象の文化財保護の必要性を普及啓発等する研修会、見学会の開催
浄瑠璃寺	重要文化財の記録作成、公開を行い、この記録を順次府内に巡回展示して、文化財保護の必要性を普及啓発
(財) 京都古文化保存協会	未指定文化財の所有者等対象の文化財的価値を損ねない適切な維持、修理、継承を助言等する相談会の開催
NPO災害から文化財を守る会	文化財を災害から守ることの重要性を普及啓発するCDの作成と府内の学校等への配布

○ 竣工状況



写真1 豊国神社（東山区）
国宝・唐門、檜皮葺修理



写真2 萬福寺（宇治市）
重要文化財・大雄宝殿の回廊屋根修理



写真3 萬壽院（宇治市）
府指定文化財・客殿の屋根突風被害修理



写真4 石田神社（綾部市）
重要文化財・恵比須神社本殿の壁板のアライグマ被害修理

寄附された方々の京都文化体験

寄附者の方々には、基金支援のネットワークメンバーの皆さまご協力により、本物の京都文化を体験していただいています。

その主な内容を報告します！

【京都文化体験1】高僧の揮毫色紙の贈呈



平成 21 年 11 月 13 日(金)、相国寺別院金閣寺東京道場(東京都港区南青山)におきまして、京都仏教会の有馬頼底理事長が、首都圏の高額寄附者 3 人に、「和」、「夢」、「心」の直筆の揮毫色紙を贈呈されました。

その後、京都の文化や文化財について、寄附者の方々と有馬理事長の懇談が行われ、なごやかで有意義なひとときとなりました。

寄附者の一人、浅原清作様は、「京都は日本の中で世界に誇れる都市。京都の文化財の保護に少しでも協力できて良かった」とおっしゃいました。

有馬理事長は、「文化財建造物の修復には多額の費用がかかる。皆様方の寄附は無駄にせず、大切に文化財の保護と継承に使わせていただきます」と感謝の言葉も述べられました。

※高僧の揮毫色紙は、3 万円以上ご寄附の方全員に贈呈しています。

※ 贈呈する色紙に揮毫いただいた高僧の皆さま [50 音順]

●真言宗智山派管長・智積院化主	阿部 龍文 猊下	●東寺真言宗管長・東寺長者	砂原 秀遍 猊下
●臨済宗相国寺派管長	有馬 頼底 猊下	●高雄山神護寺山主	谷内 弘照 猊下
●真言宗泉涌寺派管長・泉涌寺長老	上村 貞郎 猊下	●浄土門主・知恩院門跡	坪井 俊映 猊下
●浄土宗西山禅林寺派管長・永観堂法主	小木曾 善龍 猊下	●臨済宗妙心寺派管長	東海 大光 猊下
●平等院住職	神居 文彰 猊下	●臨済宗南禅寺派管長	中村 文峰 猊下
●臨済宗建仁寺派管長	小堀 泰庵 猊下	●真言宗御室派管長・仁和寺門跡	南 揚道 猊下
●天台宗善光寺大勧進・貫主(宇治市宝壽寺)	小松 玄澄 猊下	●本山修験宗管長・聖護院門跡門主	宮城 泰年 猊下
●真言宗大覚寺派管長・大覚寺門跡	下泉 恵尚 猊下	●北法相宗管長・清水寺貫主	森 清範 猊下

【京都文化体験2】清水寺夜間拝観・限定内覧(平成 22 年春)



国宝・本堂(舞台)



重要文化財・仁王門

平成 22 年 3 月 12 日(金)夕刻、清水寺様のご協力により、恒例の夜間拝観(春のライトアップ)前日の限定内覧に、寄附者の方々をご招待いたしました。

約 40 名の寄附者が参加され、「地主の桜」などつぼみもふくらみ、開花を今かとうかがう樹影を見上げつつ、静謐な雰囲気なたたずむ国宝・本堂(舞台)、重要文化財・三重塔や音羽の滝付近など、値千金の春宵を満喫していただきました。

寄附者の方は「ゆっくり清水寺を見るのは初めてで、とても良かったです。また行きたいです」、「あんなに人が少ない清水寺は普通では体験できず、ゆっくり拝観できました。せっかく京都に住んでいるのだから、これからも足を運びたいです」などと感想を述べておられました。

※清水寺様の夜間拝観の限定内覧は、年 2 回(春・秋)、寄附者のうちの希望者をご招待しています(希望者多数の場合は、抽選)。

【京都文化体験3】緑陰講座(石清水八幡宮、平成 22 年春)



石清水八幡宮社殿昇殿



重要文化財・楼門

○ 石清水八幡宮：平成 22 年 2 月 21 日(日)午後

約 25 名の寄附者は、まず同八幡宮の青少年文化体育研修センター(清峯殿)において、田中 恆清宮司(神社本庁副総長、京都府神社庁長)より石清水八幡宮の歴史、文化財、八幡信仰に関する有意義なご講話を拝聴した後、同八幡宮 西 中道 禰宜のご案内で、社殿に昇殿、重要文化財の本殿・外殿以下諸建物を特別拝観させていただきました。

さらに、社務所書院石庭に安置されている永仁三年(1295 年)の刻銘がある重要文化財の石燈籠も特に見学させていただきました。

寄附者の方々は、平成の大修理が施された美しい社殿の 152 点を数える鳥獸、草木の透かし彫り、織田信長が寄進した長さ 21.7m、径 54cm、厚さ 3cm の黄金の大樋など「天下第二の宗廟」の荘厳さ、20 数回も塗り重ねる漆の塗装作業など、精魂込めて文化財を守り伝える技に感動の声をあげておられました。

※緑陰講座(ご講話と文化財特別拝観等)は、ネットワークメンバーの皆様のご協力をいただき平成 22 年度も実施いたします。

平成 22 年 1 月以降にご寄附いただきました方には、ご案内いたします。

●【京都文化体験 4】 緑陰講座(慈照寺(銀閣寺)、平成 22 年春)



有馬住職 ご講話(書院)



本堂を特別拝観の後、国宝・銀閣にあって特別拝観

○ 慈照寺(銀閣寺)：同年3月7日(日)午後

約35名の寄附者は、まず同寺の富岡鉄斎の襷絵のある書院において、有馬 頼底 住職(臨済宗相国寺派管長、京都仏教会理事長)の慈照寺、鹿苑寺の歴史、文化財、北山文化と東山文化に関する有意義なご講話を拝聴した後、本堂、弄清亭、国宝・東求堂、国宝・銀閣、特別史跡・特別名勝の庭園等を特別拝観させていただきました。

特に国宝・銀閣は保存修理工事の最終段階でありましたが、慈照寺様のご協力にて特に拝観を許され、修理工事を担当する府文化財保護課の中尾 正治文化財専門技術員から修理工事の概要や経過を解説いただきました。

寄附者の方々は、雨に洗われた美しい銀閣のたたずまいや、ふだん体験できない銀閣の中から鑑賞する庭園(特別史跡・特別名勝：京都府内に3園のみ)など、足利義政將軍自らが監督して完成させた「東山殿」の遺構(世界文化遺産)の中に身を置き、東山文化に親しむことができました。

●【京都文化体験 5】 フタバアオイ・オーナー、葵祭特別観覧



フタバアオイ



眼前を行く齋王代

フタバアオイは、毎年5月15日の葵祭当日の内裏宸殿の御簾をはじめ勅使や奉仕者の装束、牛車(御所車)などの乗物に至るまで飾り付けられます。葵祭の名称は、このことに由来しています。

オーナーは、自ら育てたフタバアオイを身につけた行列が都大路を進むことで、葵祭への参加を実感していただけます。

また、オーナーには上賀茂神社の特別棧敷での葵祭観覧にもご招待します。昨年のオーナーは、「良い場所で葵祭を見せていただき感激しました」、「齋王代を間近に見られて良かった」などの感想を述べておられました。

※フタバアオイ・オーナーは、京都府のホームページ等で募集します。

京都府ホームページ：<http://www.pref.kyoto.jp/furusatokifu/>

●【京都文化体験 6】 京都府京都文化博物館特別展内覧会への通年ご招待

京都府京都文化博物館で平成23年度以降に開催される特別展の関係者限りの内覧会に通年ご招待し、幅広い京都文化を鑑賞していただけます。

※京都府京都文化博物館の特別展内覧会は、平成22年1月以降の寄附者のうちの希望者をご招待します。
(希望者多数の場合は、抽選)



京都文化博物館

○ネットワークメンバーの皆様による主な取組

◆文化体験

清水寺様、上賀茂神社様、京都仏教会様、京都府神社庁様、京都府京都文化博物館様からご提供いただいております。

◆募金等による取組

いろいろな形のご篤志を基金に寄附いただいております。

① 寺院への募金箱の設置

(清水寺様、金閣寺様、銀閣寺様、教王護国寺様、大覚寺様、泉涌寺様、仁和寺様、妙法院三十三間堂様、三千院様、青蓮院様、東福寺様、南禅寺様、永観堂様、平等院様)

② 寄附機能付き自動販売機の導入

(コカ・コーラウエスト(株)様、(株)ハートフレンド様、近畿ペプシコーラ販売(株)様、(財)京都府立植物園協力会様)

③ 企業キャンペーンによる基金寄附(アサヒビール(株)様) 等

◆広報の協力

- ① ポスターの掲出やリーフレット、ハガキの配付
- ② 広告物、会報・社内報などへの掲載 等

文化庁にも
ご協力いただ
いております!

◆ネットワーク参加・協力をお願い

未来の日本にとっても大変有意義な社会貢献です。多くの皆さまのご参加、ご協力をお願いいたします。

文化財

こぼれ話 5



神泉苑

○ 神泉苑と御池通(中京区)

京都には、多くの名園があり(国指定の特別名勝は14で全国最多)、京都の文化財の一つの特色となっていますが、平安時代初期の貴重な庭園(苑池)遺構も2箇所保存されています。平安京創建に際して造営された神泉苑(国史跡、中京区御池通神泉苑町)と、嵯峨天皇の離宮・嵯峨院の遺構である大沢池・名古曾流跡(国史跡、名勝、右京区嵯峨大沢町の大覚寺境内)です。

神泉苑は、平安宮に南接して8町の広大な敷地を有し(東西約220m、南北約440m)、内部には湧水を利用した広大な池や正殿、閣、釣殿など多くの建物が並び、天皇、皇族、貴族がたびたび訪れ、遊宴が行なわれました。9世紀初めには空海(弘法大師)などの高僧が祈雨の修法を行ったり、渇水時には池の水を近辺の給水や灌漑に用いました。貞観11年(869)には疫病退散のための御霊会が行われ、全国の国の数にちなんだ66鈴が建てられ、その後御霊会は何回も行われ、祇園祭の起源になりました。醍醐天皇が池の鶯に五位の位を賜った故事は、謡曲「鶯」の題材です。その後、兵火などで衰退し、徳川幕府による二条城の造営で北半分が大きく削られましたが、寺院として復興し、東寺に属しました。近年の地下鉄東西線に先立つ発掘調査で、東西の範囲、池の汀、船着場跡などが出土しています。毎年5月には神泉苑狂言(京都市登録無形民俗文化財)も行われています。

なお、京都市街地の東西を走るメインストリート御池通の名は、この神泉苑の池に由来したと言われております。

「文化財を守り伝える京都府基金」の概要

趣旨

京都府内には、歴史的建造物など数多くの貴重な文化財があり、これらを地震・火災等から守り、保存、修理することで、未来に良好な状態で伝えていく必要があります。

このため、京都府では、文化財保護のため全国の皆さまに寄附をお願いすることとしました（ふるさと納税の適用があります）。

また、寄附をお願いするにあたり、寄附金の使い道や取組の過程を透明化することが重要であり、こうした取組が多くの方々に安心して寄附していただくことにつながるの考えから、寄附金の受け皿となる基金を条例により設置しました（寄附は京都府出身者に限らず、もちろん京都府在住の方を含め、どなたでもしていただけます）。

文化財を愛する方や全国の京都ファンをはじめ、多くの皆さまの暖かいご支援をお待ちしています。

寄附の使い道

寄附金の使い道はお申し込みの際に、次のとおり、お選びいただけます。対象となる個別の事業は、寄附者のご意向や専門家の意見を踏まえて選定いたします。また選定した事業の内容や取組結果については、寄附いただいた皆さまにお知らせすることとします。

- 歴史的建造物などの有形文化財の保存、修理のための事業
- 地震、火災等から有形文化財を守るための事業
- 文化財保護のこころを育む事業 など

寄附の方法

添付の寄附申込はがきを文化環境総務課までお送り下さい。お電話やEメールでも結構です。

後日、寄附金額を記した納付書をお送りしますので、お手数ですが、納付書に記載されているお近くの金融機関にて払い込んでください。

また、ホームページから、クレジットカードによる寄附も受け付けております。（www.pref.kyoto.jp/furusatokifu/）

※ 京都府では、寄附口座の口座番号は案内していません。振り込み詐欺等には、十分ご注意ください。

ふるさと納税とは地方公共団体に寄附した場合、住民税の税額控除がうけられる制度です。

地方公共団体に対する寄附金については、5千円を超える分については、基本的には、個人住民税所得割額の概ね1割を上限に、所得税と合わせて全額が控除されることとなりました。

所得税は寄附した年、住民税はその翌年度から控除されます。なお、京都府発行の寄附金受領証明書を添えて確定申告（郵送可）する必要がありますので、大切に保管してください（手続きはお住まいの税務署に行けば一度で済みます）。

【寄附金控除の例】

●夫婦のみの給与所得者で年収700万円の方が、5万円寄附いただいた場合、4万5千円程度の軽減となります。

※ 控除額は家族構成や給与収入額等で異なります。

※ 詳しい例は、ホームページをご覧ください。

※ 制度の適用は京都府出身者に限らずまた、京都府在住者を含むどなたにでもあり、安心して寄附していただけます。

※ ご提供いただいた個人情報は、他の目的には一切使用いたしません。

個人情報を漏洩・流出させたり、不正に利用したりしないよう、厳正な管理を実施しております。

※専用ホームページを開設しました。
www.pref.kyoto.jp/furusatokifu/

※ご寄附いただいた方には・・・

本誌に記載しております本物の文化、文化財に触れる機会をご提供します。

●基金呼びかけ人の皆さま(五十音順)

- | | |
|------------------------------|------------------------------|
| 尾池 和夫(京都大学前総長) | 千 玄室(前・茶道裏千家家元) |
| 金田 章裕(大学共同利用機関法人人間文化研究機構機構長) | 土岐 憲三(立命館大学教授・歴史都市防災研究センター長) |
| 佐々木 丞平(国立文化財機構理事長) | 村井 康彦(財団法人京都市芸術文化協会理事長) |
| 白幡 洋三郎(国際日本文化研究センター教授) | |

●文化財を守り伝える京都府基金等事業費補助金選定委員会

- | | |
|----------------------------------|---------------------------------|
| 委員長 村井 康彦(財団法人京都市芸術文化協会理事長) | 委員 土岐 憲三(立命館大学教授・歴史都市防災研究センター長) |
| 委員 永井 規男(関西大学名誉教授、京都府文化財保護審議会会長) | 委員 京都府文化環境部長 |

●平成22年4月までの寄附額

文化財保護のための京都府へのご寄附ありがとうございました。

寄附額(累計)
412件
約2,640万円

- 地域別 近畿圏 303件、首都圏 74件、その他 35件
- メニュー別 ①歴史的建造物などの有形文化財の保存・修理 56.9%
- ②地震・火災等から有形文化財を守るための事業 33.2%
- ③文化財保護のこころを育む事業 9.9%

ありがとうございます。
ごさいます。

●お問い合わせ

寄附、京都文化体験、ネットワークなどについてのお問い合わせ

京都府文化環境部文化環境総務課
〒602-8570
京都市上京区下立売通新町西入る藪ノ内町
TEL 075-414-4181
FAX 075-414-4187
Eメール bunkanso@pref.kyoto.lg.jp

個人情報保護シール

右の寄附申込書ハガキの記入欄に必要事項をご記入いただき、このシールをはがして点線に添って、そのまま貼り付けてください。

※注意：このシールは一度貼り付けた後、はがすと再度貼ることはできませんのでご注意ください。

平成 年 月 日

寄附申込書

下記のとおり京都府に寄附します。

ご住所

フリガナ
お名前

電話

ご連絡方法 FAX

Eメール

1 寄附額 円

- 2 希望されるメニューに○印をお付けください。
 - ① 京都府内の歴史的建造物などの有形文化財の保存・修理のための事業
 - ② 地震・火災等から有形文化財を守るための事業
 - ③ 文化財保護のこころを育む事業
- 3 現時点でご希望の文化体験(P.7~P.10)があればご記入ください。

4 京都府へのメッセージをお寄せください。

ありがとうございました。